



高村 智 議員

質問1 今現在の待機児童数は

市長 待機児童はいませんが、潜在的待機児童数は51人

北斗市は、長い期間にわたり子育てしやすいまちとして評価を受けています。

しかし、全国的な人口減少や少子化によって北斗市の未来予想図も厳しい状況であることは、近年の人口減や出生数を見ても明らかです。

一般質問

そこで、これからどのような「まちづくり」をしていくのか、以下の観点からお聞かせください。

- (1) 保育園の待機児童問題は、北斗市でも解消されています。今現在の待機児童数と今後の取り組みをお聞かせください。
- (2) 放課後児童クラブの今後の課題とこれからの考えをお聞かせください。
- (3) コロナ禍で児童虐待が急増していると言われています。

北斗市では北海道函館児童相談所と連携しながら問題解決しているのですが、相談件数が増えれば増えるほど担当職員への対応に限界を迎え、救える命を救えない痛ましいニュースも見受けられます。

本来であれば、自分のまちは自

分たちで解決できるよう対応するべきだと考えますが、これからの考えをお聞かせください。

市長 (1) 現在、待機児童はいませんが、希望どおりの保育所等に通うことができている「潜在的待機児童」は、12月1日時点で、0歳児クラスから5歳児クラスまで51人となっております、その内45人が市内の保育所等を、6人が市外の保育所等を希望しています。

なお、来年3月末をもって当別保育園が閉園することに伴い、来年度においては、一定数の待機児童が発生してしまうものと考えています。

その解消策として、来年度においては、保育士の人材バンクを開設するなどとして、保育施設の環境整備と保育士の人材確保の両面から課題解決を図ってまいります。

- (2) 来年度に向けて、質的拡充のための研修会の開催など充実を図ってまいります。
- (3) 専門性の高い「子ども家庭総合支援拠点」の早期設置に向けて準備を進めてまいります。

質問2 各店舗での感染拡大を防ぐ感染対策補助金の考えは

市長 新たな施策等を継続して検討してまいります

北斗市では国からの補助金を活用し、様々なコロナ対策を進めてきました。

これからは感染を抑えながら生活して

いく方法を市民一丸となって早急に取り組んでいかなければならないと考えます。地域応援券も経済対策としては経営者の皆さんに喜んでいただき、第2弾の効果にも期待が高まっています。

しかし、そのためにも各店舗での感染拡大を防ぐ感染対策にも積極的に手を打つべきと考えます。

特に理美容室や飲食店、病院や整骨院、買い物など滞在時間の長い事業所には、空間除菌型のエアコンや空気清浄機や間仕切りなどのさらなる対策にも補助金を出すべきと考えますが、今後の対応をお聞かせください。

- (2) 新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する中、全国的に感染者並びに感染施設、個人、団体を問わず不当な差別や偏見、いじめを受ける事案が発生しています。また、不確かな情報や誤った情報によるいわれのない風評被害が社会問題化しています。

一部の自治体では新型コロナウイルス感染症患者等の人権の擁護に関する条例を定めています。

人権の侵害を未然に防止するとともに、人権の侵害による被害からの迅速かつ適切な救済を図り、感染症の患者や家族が安心して暮らすことができるよう北斗市でも条例を制定してどうか考えますが、市長の考えをお聞かせください。

(3) 新型コロナウイルスに感染の恐れがある場合、市役所や保健所に相談して具体的な手続きになるかと思えます。

先日、味覚に異常を感じた市民が市役所に電話したところ、歯科医へ行くように言われたため、さすがにそれは違うと感じて渡島保健所に連絡した際、北斗市では検査する医療機関が無いため、七飯町の医療機関を教えられたとのことでした。なぜ、市内の医療機関ではPCR検査ができないのか、具体的な症状を言われた場合の対処方法など、市民を不安にさせないような対応が必要と思いますが、市長の考えをお聞かせください。

市長 (1) 市としては、様々な事業を通して、側面からの事業者支援を中心に幅広く行っていることから、今後も国の動向等に注視しながら、新たな施策等を継続して検討してまいります。

- (2) 国や他の自治体の人権侵害に対する対応状況を注視しながら、条例の必要性を検討してまいります。
- (3) 市内の医療機関が発熱患者を時間的あるいは空間的に分けることが困難な構造である点と、感染症の専門スタッフがいないからと聞いています。

疑いのある場合はかかりつけ医や市内の電話相談医療機関、北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センターへ電話していただきたい。